

**2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験**  
**デザイン・アート学部「総合評価方式(ポートフォリオ型)」**

**1. 実施状況**

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
デザイン・アート学科	140	75	50
計	140	75	50

(2) 本入学試験の目的

取り組んだ活動のコンセプトやプロセス、自身の役割などを「ポートフォリオ」を通じて表現していただきます。「ポートフォリオ」を含むエントリーシートの内容と面接での質疑応答を通じてアドミッション・ポリシーに適合する人材かどうかを判断しました。

※ポートフォリオとは、デザイン、アートなどの制作活動や作品のみならず、探究学習や部活動、自主的な活動を含めた幅広い活動の実績について資料をまとめ、表現されたものを指します。

**2. 試験内容**

(1) 第1次選考

出願書類のポートフォリオとエントリーシートをもとに総合的に評価しました。ポートフォリオの作成にあたっては、その制作物の制作や活動を行うに至った動機や着眼点、制作や活動における課題や工夫したこと、最終的な成果や自己評価、その成果によって得られた新たな視点などを記載することを求めました。

エントリーシートの作成にあたっては、デザイン・アート学部を志望する動機や入学後の学修計画、また大学入学後の将来ビジョンについて記述を求めました。

(2) 第2次選考

第1次選考の合格者を対象に、1人あたり約20分の個人面接を実施しました。ポートフォリオの制作活動や活動実績に繋がった動機や、成果物の完成や実績を挙げるに至った過程や課題への対応、どのようなビジョンを持っていたのか、等について質疑応答を行いました。

また、エントリーシートに記載された本学部への志望動機や入学後の学修計画やビジョンを確認しました。

**3. 出題の意図**

(1) 第1次選考

ポートフォリオでは、以下の3項目について重視しました。

- ①プロセスへの自覚があるか。成果を並べるだけでなく、「どのような過程を経てそこに至ったか」「試行錯誤や迷い」も含めてまとめられているか。
- ②収録された作品や活動に一貫した問いや関心が見えるか。異なる素材やテーマでも、そこに通底する感覚やまなざし、自己の世界観が伝わる構成になっているか。
- ③全体から「自分のビジョン」が立ち上がるか。断片的な活動の集積ではなく、「自分は今からどのようになっていきたいのか」という未来への姿勢が感じられるか。

エントリーシートでは、デザイン・アート学部を志望する動機や入学後の学修計画、また大学入学後の将来ビジョンを重視しました。

## (2)第2次選考

面接では、ポートフォリオの構想と意味、「自分はこれからどのようなようになっていきたいのか」という将来のビジョンについて、自分の言葉と表現で明確に説明できるかを重視しました。

## 4. 評価のポイント

### (1)第1次選考

ポートフォリオでは、美術・デザインに限らず、探究学習、地域活動も含め、学校内外の多様な経験を創作や構想という観点から捉え直し、活動の動機・プロセス・成果・課題・学び・今後への展望を記述し、単なる「記録」にとどまらず、アイデアや計画をより高いレベルに引き上げ、具体的な価値や意義を提示できているかを重視しました。また、作品や活動のプロセスが、その動機となった問いや関心と一貫したものになっているかも重視しました。

エントリーシートでは、この学部で学びたい理由や動機、入学後の学修計画や将来ビジョンが具体的で明確であるかを確認しました。デザイン・アート学部のカリキュラム構成等について正しく理解しているか、また、学部での学びを自身の目標達成にどう活用し、生かしていくかを具体的に提示できているかを評価しました。

### (2)第2次選考

面接では、洗練された言葉や形式よりも、自身の言葉や心からの表現を尊重しました。ポートフォリオに関する質疑応答では、断片的な活動や経験の積み重ねだけではなく、自身の問いや関心、課題意識にもとづいた「自分のビジョン」に沿った構成になっているかなどについて確認しました。また、ポートフォリオでまとめた作品や実績を踏まえて、「自分はこれからどのようなようになっていきたいのか」という将来のビジョンが明確に答えられるかも重視しました。

なお、エントリーシートの志望動機や入学後の学修計画、将来ビジョンについても確認しました。

## 5. 解答状況

### (1)第1次選考

ポートフォリオでは、全体に一貫したストーリーと軸があり、複数の活動や作品が問題意識・価値観・感性と結びついて表現され、これまで情熱を注いできた活動と、デザイン・アート学部での学びや将来像が自然につながるものが高い評価を得ていました。そうしたポートフォリオは、自身の考え方やなりたい自分、将来のビジョンも明確でした。

エントリーシートでは、志望動機や入学後の学修計画や将来ビジョンが具体的に示され、ポートフォリオとの関連性が明確であるものが高く評価されていました。

一方、経験と実績の羅列に終始しているもの、将来のビジョンやなりたい自分が不明確なもの、文字が多く視覚的な表現の工夫が乏しいものもみられました。

### (2)第2次選考

面接では、ポートフォリオに加え、エントリーシートの志望動機や将来ビジョンも含め、全体の関係を一貫して説明し、これまでの活動や制作の経験を起点に、今後何を学び、どう発展させたいのかを具体的に説明できている内容が高く評価されました。また、自身の経験や考えに即して、制作プロセスや試行錯誤、作品に込めた意図を考え抜かれた言葉で表現できている場合に高く評価される傾向にありました。

一方、これまでの活動や経験と、デザイン・アート学部での学びや将来像との関係を十分に語れていない応答もみられました。また、キーワード先行で抽象的表現にとどまり具体性や必然性が欠けている、自分の大切にしているものや一貫した軸が伝わってこない説明もみられました。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

ポートフォリオの作成にあたっては、美術・デザインに限らず、探究学習、地域活動、さらに日常的な社会活動も含め、学校内外の多様な経験を創作や構想という観点から捉え直し、それを

一貫した関心や成長のプロセスとして可視化するような編集を心がけてください。活動の動機・プロセス・成果・課題・学び・今後への展望の記述とともに、「どのような過程を経てそこに至ったか」「試行錯誤や迷い」「自己の世界観」が伝わる「構想と意味」の提示となるよう工夫してください。また、「うまくまとめること」より「誠実に自分自身の表現をすること」に努めてください。

エントリーシートでは、志望動機や入学後の学修計画や将来ビジョンを具体的に示すだけでなく、ポートフォリオとの関わりが明確になるよう留意してください。また、学修計画の作成については、学部の公式ホームページやパンフレット、オープンキャンパスなどを積極的に活用することを推奨します。

以上